

医心 伝心

第72回富山県医学会を 迎えるにあたって

富山県医師会常任理事 南里 泰弘

第72回富山県医学会が今年度は1月28日に開催される。今のような形式になって4回目の開催である。病診連携、病病連携において顔の見える関係を作ろうとの思いから馬瀬会長の発案で始まった。以前は、講演1題と富山県医学研究助成金課題の報告3演題の発表であり参加者も少ないものであった。他県医師会で行われていた医学会を参考に富山県医師会でも同様の医学会を行うことになったが、他県と違うのは医師だけの発表の場ではなく、メディカルスタッフや医学生を含めた医療関係者すべてに発表の場として提供していることである。テーマを決めた口演発表と一般演題として医療に関わる全てのジャンルからポスター発表として応募していただく。昨年からはランチョンセミナーも製薬会社との共催ではなく富山県医師会独自で行うことで医療倫理の単位が取得できることとした。このような企画で行うことで参加者も増え、昨年度は405人の参加者があり、ランチョンセミナーの弁当が足りず、職員が追加で買いに走るほどで、1階大ホールでは立ち見席ができるほど盛会であった。

今年度の口演のテーマは『多職種連携による医療』『かかりつけ医の役割』『わが病院の特色』とし18題、一般演題81題の応募がありこれまでにない演題数となった。演題発表に協力していただいた各関係機関にこの場を借りてお礼を申し上げます。またランチョンセミナーは、宮崎大学医学部社会医学講座、生命・医療倫理学分野教授板井孝彦先生に『現場実践に生かす臨床倫理の考え方ー特に尊厳死やDNARをめぐる誤解と混乱を整

理するー』と題して講演していただく。この講演は専門医共通単位である『医療倫理(必修)』が取得できるのでこれから専門医を取得しようとしている先生、また専門医の継続をする先生ともにぜひとも受講していただきたいものである。メディカルスタッフの方には医療安全管理の研修単位が取得でき、多くの医療関係者の参加をお願いしたい。

今年度はイクボスセミナーと題してNPO法人ファザーリング・ジャパン理事の徳倉康之先生に『医師も辞めない病院にする方法』と題して講演していただき、医師の働き方改革が今、実際に行われている中タイムリーな話題として提供する。若い先生方が多く働く病院の部長先生、副院長、院長先生方にぜひとも聞いていただいて昔のような滅私奉公的な働き方ではなく、時代に合った医師の働き方を学んでいただきたい。地域医療を担う医療機関の方には、富山県糖尿病重症化予防対策講座として富山県リハビリテーション病院・子供支援センター副院長兼内科部長臼田里香先生に『富山県糖尿病対策推進会議活動の紹介と糖尿病重症化予防推進の重要性について』と題して講演していただく。また富山県医師会医学研究助成金課題研究報告として2演題の発表を予定している。

今年度も盛りだくさんの内容であり、学会形式をとった本医学会は、富山県医師会が公益学術団体である証であると信じております。今年は弁当が足りないことがないように十分に用意いたします。どうぞ多くの医療関係者、先生方、医学生の参加を期待しております。よろしく願いいたします。